

「日本語のしらべ 冬」

平成二十七年十一月十四日

第一次・二次指導（二時間扱い）

一 よむ（順繰り読み）

七区画 七人（詩と短歌、俳句の作品毎に番号を振る）

- ① 北風の中
- ② しらしらと
- ③ 「寒いね」と
- ④ 霜やけの
- ⑤ 斧入れて
- ⑥ まばらなる
- ⑦ 湯たんぽの

二 とく

○ 題目

（板書）日本語のしらべ 冬

・春、夏、秋と「日本語のしらべ」を読んできた。四季の中で、冬はどういう季節か？

一番寒い季節。

※「冷たい風が吹く」「雪が降る」「凍る」など話したい
子どもができれば話させてもよい。

（板書）1から7まで番号を右端に小さく書く

・詩や短歌、俳句の中で、「冬」だと分かる言葉がある。

- 1 北風
- 2 氷、冬の月
- 3 寒

4 霜やけ

5 冬

6 冬木

7 湯たんぽ

◎ ひびき

- ・寒い冬のことを書いているのに、あたたかいものがある。
 - ・7番のほかに「あたたかい」のは何番か？ 3番。
 - ・ほかに「あたたかい」と感じるものはないか？ 4番。
- 手引き
・最初の詩と、3番、4番、7番を書く。

三 よむ

四 かく

五 よむ

六 とく

○ 語義・区分

・夢を割る ここでの「夢」は、夜見る夢か？

・霜やけ 寒さで手足の皮膚が赤く腫れて痛くなる炎症。

・しのぼゆ 離れている人のことをひそかに思う。

・湯たんぽ 中に湯を入れ、寝床に入れて足や体を温める道具。

・さざなみ 漢字で書くと「小波・細波」

・「詩」と「短歌と俳句」に分ける。

◎ 心

- ・短歌と俳句は、「あたたかい」感じ。詩は、どうか。寒い。
- ・あたたかい方から考える。

・この中で、あたたかいものは何か？どの言葉か？

湯たんぼ

わが子

人

・まわりの気温はどうか？ 寒い。

・あたたかいのは何か？

湯たんぼの俳句は？

体（足）

体だけかな？

・前の二つの短歌は、どこがあたたかくなったか。 気持ち（心）

詩を考える。

・「寒い」と分かる言葉はどれか？

北風ごうごう吼えている

・寒い北風の中で、ぼくがしていることは何か？

駆けて ころぶ

夢を割る

・「夢を割る」とは何か？ 今持っている自分の希望を捨てる。

もっと大きな夢を持つ。

・この詩で一番言いたいのは、一連から四連の中で、どこか。

四連

七 よむ（指音読）

・板書を指音読

・時間があれば、教科書を順繰り読み。

○ 余韻

・詩には題がある。短歌や俳句に題をつけるとすれば、2番の題

は、どの言葉か。「月」。

・5番の題は？「香」。6番の題は？「空」。

（板書）

日本語のしらべ 冬

北風の中

木村信子

北風の中ぼくは駆けていく

5 冬

北風の中ぼくはまたころぶ

7 湯たんぼ

北風ごうごう吼えている

北風もやっぱりさがしている

北風の中ぼくは夢を割る

北風の中ぼくの少年期

北風北風もっと吹け

ぼくももっと高く跳ぶ

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と

答える人のいるあたたかさ 俵 万智

霜やけの小さき手して蜜柑むく

わが子しのばゆ風の寒きに 落合 直文

湯たんぼの中のさざなみ抱きけり

鳥居 真里子